第３章

緑の現況と変遷

第３章 緑の現況と変遷

3-1　緑の現況

（1）調布市全体の緑の現況

- 自然面／自然面率　775.57ha／35.9%
- 緑被地／緑被率　669.98ha／31.0%

平成 27 年の調布市全域における緑の現況は，自然要素全体を対象とする自然面の緑の面積として 775.57ha であり，市域全体の自然面率は 35.9%となっている。

このうち，植物で覆われた緑被地の面積が 669.98ha であり，緑被率（市域面積に対する緑被地面積の占める割合）は 31.0%となっている。この内訳は，樹木が 334.57ha（15.9%），草地が 183.59ha（8.5%），農地（田畑，果樹園・苗圃等）が 140.22ha（6.5%），屋上緑化が 1.60ha（0.1%）である。

その他のオープンスペース*としては，裸地*が 66.84ha（3.1%），水面が 38.75ha（1.8%）となっており，これ以外は，建築物や道路などの人工被覆面として 1,382.43ha で市域全体の 64.1%を占めている。

表 3-1　緑の現況

区分		面積(ha)	構成比(%)
緑被地／緑被率	樹林	344.57	16.0%
	草地	183.59	8.5%
	農地	140.22	6.5%
	屋上緑化	1.60	0.1%
		669.98	**31.0%**
その他のオープンスペース	裸地	66.84	3.1%
	水面	38.75	1.8%
自然面／自然面率		**775.57**	**35.9%**
人工被覆面		1,382.43	64.1%
市全体		2,158	100.0%

また，植物で覆われた緑被地は，樹木で覆われた「立体的みどり」，草地や田畑で覆われた「平面的みどり」，「屋上緑化」に３区分し，その詳細を表 3-2 に示した。

市内の緑被地としては，人口１人当たりの面積は 29.8 ㎡となっており，このうち，「立体的みどり」としての樹木に覆われた面積は 396.23ha（18.4%）であ

＊参考資料に語句説明あり。

り，「平面的みどり」としての田畑や草地の面積は 272.15ha（12.6%），このほかに屋上緑化の面積が 1.60ha（0.1%）となっている。

表 3-2　緑被地等の現況

区分			面積(ha)	構成比(%)	人口一人当たりの面積(㎡/人)
緑被地/緑被率 ①	立体的みどり	屋敷林	18.50	0.9%	0.8
		住宅・事務所等の植栽	116.20	5.4%	5.2
		山林・平地林	29.07	1.3%	1.3
		公園の緑	72.55	3.4%	3.2
		公共施設の緑	50.08	2.3%	2.2
		道路の緑	16.06	0.7%	0.7
		民間施設の緑	34.02	1.6%	1.5
		社寺林	8.09	0.4%	0.4
		果樹園・苗圃等	51.66	2.4%	2.3
			396.23	18.4%	17.6
	平面的みどり	田畑	88.56	4.1%	3.9
		草地	183.59	8.5%	8.2
			272.15	12.6%	12.1
	屋上緑化		1.60	0.1%	0.1
			669.98	31.0%	29.8
その他のオープンスペース ②		裸地	66.84	3.1%	3.0
		水面	38.75	1.8%	1.7
			105.59	4.9%	4.7
自然面/自然面率 ①＋②			775.57	35.9%	34.5
人口被覆面			1382.43	64.1%	61.5
市全体			2158.00	100.0%	

＊端数四捨五入により合計が合わない場合があります。
＊人口は平成27年12月1日現在の住民基本台帳による総数224,703人を使用。
＊面積の計測は、平成27年7月14日時点の航空写真撮影データを使用。
＊1haは、10,000㎡。

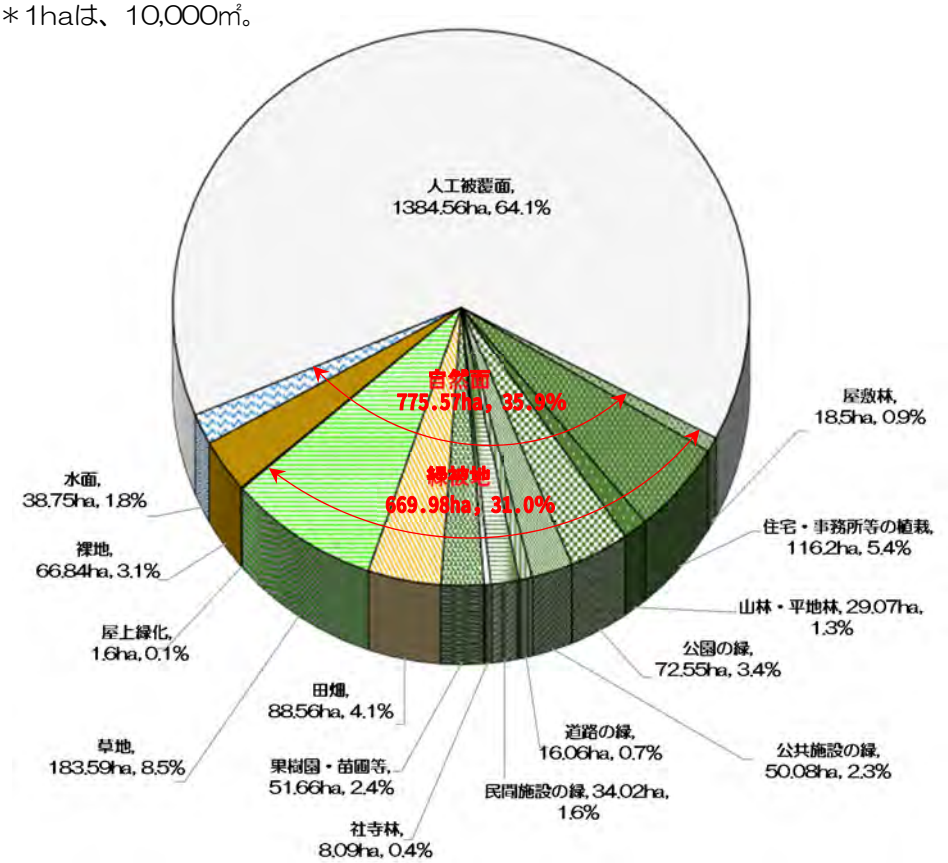

図 3-1　緑被地等の割合

・みどり率　　約 36%（35.5%）

「みどり率」は，以下の表 3-3 が示すように，植物で覆われた「緑被地」の市全体の割合である「緑被率」に河川などの水面及び公園内の園路や広場など樹林や草地の緑で被われていない人工被覆面の面積を加え，その面積の市全体の面積に対する割合を示したものである。[注1)]

調布市の「みどり率」は，「調布市緑の基本調査　改定版」（平成 22 年，調布市）で示された目標の 36.0%に対して，約 36%（35.5%）となっている。

表 3-3　みどり率等の現況

区分			面積(ha)	構成比(%)
緑被地／緑被率	立体的みどり	屋敷林	18.50	0.9%
		住宅・事務所等の植栽	116.20	5.4%
		山林・平地林	29.07	1.3%
		公園の緑	72.55	3.4%
		公共施設の緑	50.08	2.4%
		道路の緑	16.06	0.7%
		民間施設の緑	34.02	1.6%
		社寺林	8.09	0.4%
		果樹園・苗圃等	51.66	2.4%
		①	396.23	18.4%
	平面的みどり	田畑	88.56	4.1%
		草地	183.59	8.5%
		②	272.15	12.6%
	屋上緑化 ③		1.60	0.1%
	①+②+③		669.98	31.0%
水面（水辺を含む）			64.15	3.0%
公園区域内	裸地		9.59	0.5%
	人工被覆面		21.70	1.0%
みどり率対象面積の合計			765.43	35.5%
公園区域外	裸地		31.84	1.4%
	人工被覆面		1,360.73	63.1%
市全体			2,158	100.0%

＊端数四捨五入により合計が合わない場合があります。
＊面積の計測は、平成27年7月14日時点の航空写真撮影データを使用。
＊水面（水辺を含まない）の面積は38.75ha、構成比は1.8%となる。
＊但し，みどり率は「調布市緑の基本調査」（平成22年，調布市）当時の市全体面積2,153haによる算出では35.6%となる。[注2)]

注１）：東京都は，平成 12 年 12 月に都内の緑に関する施策展開の指針として定めた「緑の東京計画」において，緑が持つ 4 つの機能として「都市環境の改善」，「防災」，「うるおい，やすらぎ，風格」及び「生物の生育基盤」を位置づけている。これらの機能を発揮させていくうえで，「水面」が持っている役割が重要であり，「公園」についても公園全体で緑が持つ機能を発揮していることをふまえ「みどり率」を設定している。

注２）：調布市の面積は，「平成 26 年全国都道府県市区町村別面積調」（平成 26 年 10 月 1 日時点、国土交通省国土地理院）により，21.53 平方キロメートルから 21.58 平方キロメートルに変更している。これは各市区町村の面積が、国土交通省国土地理院が公表している「全国都道府県市区町村別面積調」を基に管理しており、この面積を計測する方法が変更されたため、新面積に変わっている。

緑被地の各区分の内容と状況は次のとおりである。

屋敷林

屋敷林は，農家の家周りに防風などを目的としてケヤキやカシ類などを植えたものが，現在でも残されているものである。

屋敷林を育成する過程には当然人的作用が加わってはいるが，長年にわたって環境に適合した樹種が育てられてきたので，現在では自然林的な要素をもつものが多い。これらは主に，農地がまとまって残っている北部地区，東部地区に分布している。

住宅・事務所等の植栽

戸建住宅や集合住宅の庭の樹木及び事務所ビルの植栽の樹木からなり，市内では野ヶ谷団地や入間町１丁目，西つつじヶ丘１丁目などに多く分布している。住宅の植栽量は，敷地規模や建ぺい率によるところが大きい。

山林・平地林

山林・平地林は，主として昔，農家が燃料や堆肥などの農業用として育成していたクヌギやシデ，コナラなどの林が維持されて現在に残っているもので，国分寺崖線や仙川崖線，布田崖線の斜面地に残されている。これらの一部は公遊園や緑地として保全されている。

公園の緑

市内には都立神代植物公園や都立野川公園をはじめ，市立公遊園及び住宅団地内の公園などが多数あり，これらの植栽樹木で構成されている。

道路の緑

一般には街路樹を指し，甲州街道のケヤキの区間や鶴川街道では，樹冠（樹木の上部の，枝・葉の茂っている部分）が連続して緑被量が多くなっている。

公共施設の緑

市施設，国と東京都施設，公立学校，公営住宅などの外周部の緑地で構成されている。

民間施設の緑

民間施設の中で規模の大きな緑被地を有している私立学校や工場，研究所，企業厚生施設，宗教関連施設などの植栽樹木で構成されている。

社寺林

市内には歴史的・文化的資源を持つ神社・寺などが多くあり，規模の大きな社寺林を有するものは地域の原風景的な雰囲気のある景観をつくり出している。深大寺をはじめ，布多天神社や若宮八幡神社など代表的な社寺林が点在している。

果樹園・苗圃

本市は東京都内でまとまった苗木の生産地として知られ，深大寺周辺に苗圃が多くある。

田 畑

田は深大寺南町や染地周辺に見られ，畑は市内の全域に広く分布している。

なお，果樹園・苗圃と合わせた農地による緑被地は緑被地全体の約２割を占めている。

草 地

草地の大部分は，国土交通省航空局の調布飛行場や都立野川公園，ゴルフ場などの大規模施設や野川，多摩川の河川敷で構成されている。そのほかには，住宅団地の庭やグラウンドなどにまとまって分布している。

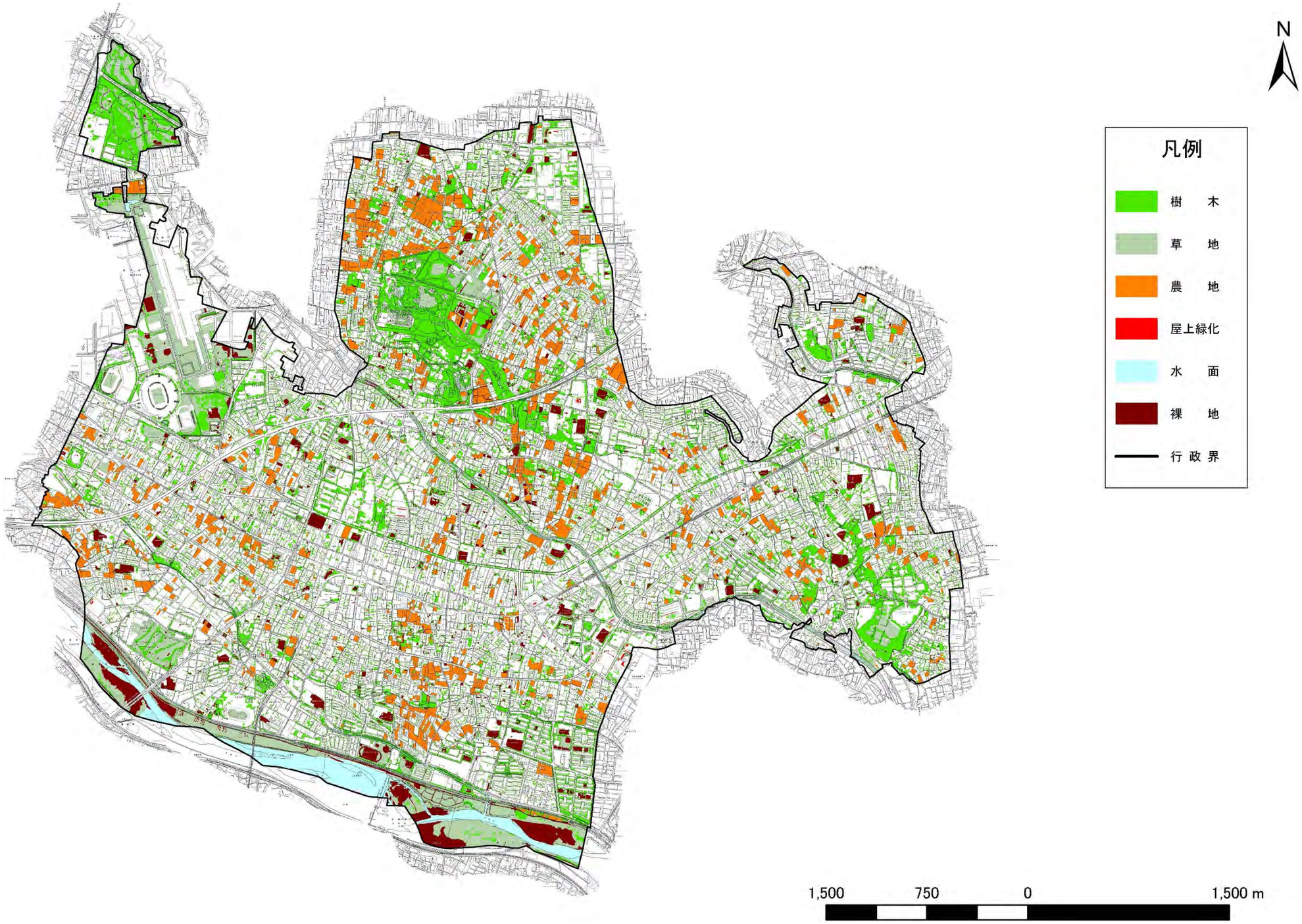

図 3-2　緑の分布状況

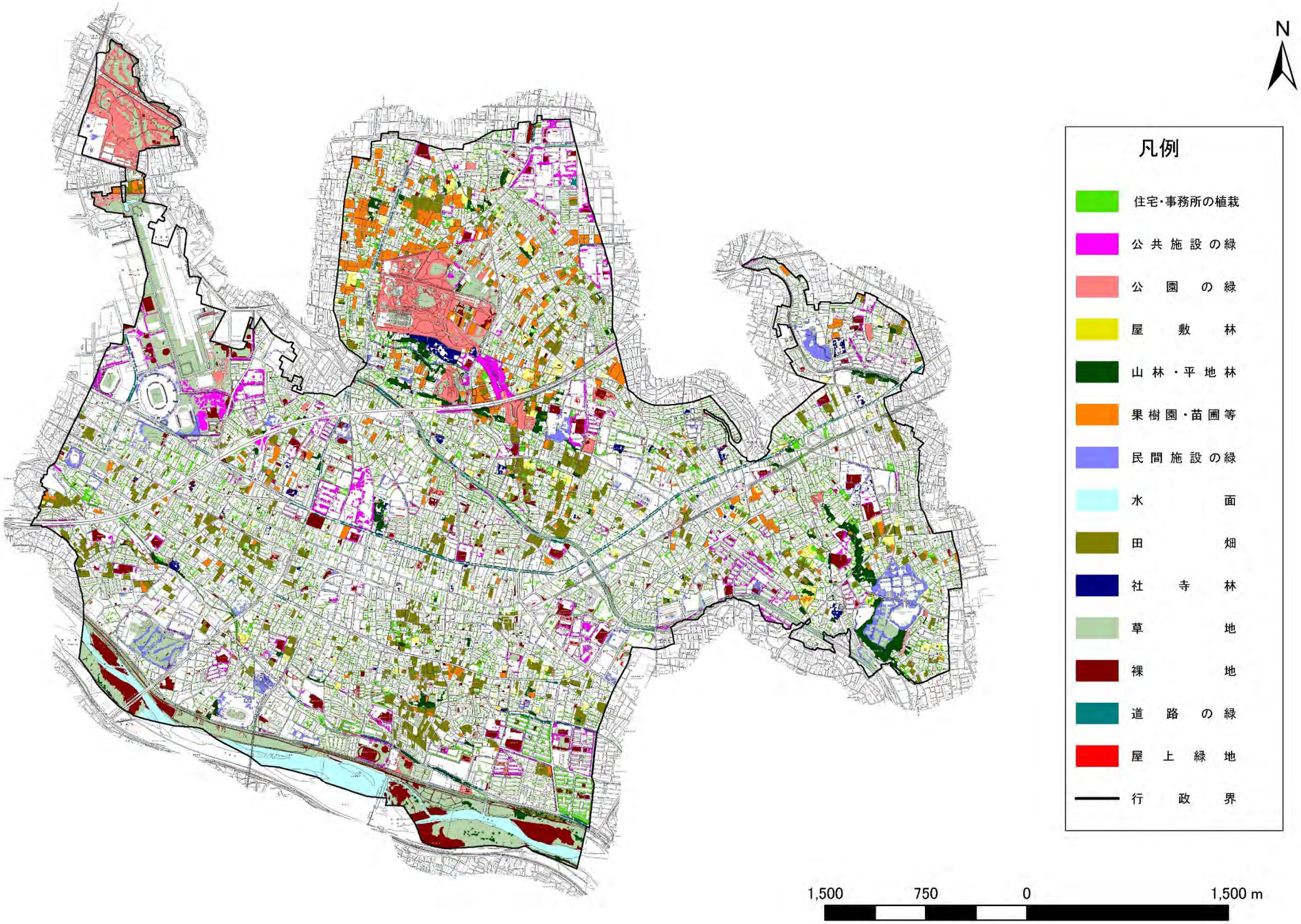

図 3-3　緑被地（詳細）等の分布状況

（2）地域別緑被率の構成

地域別における緑被率の構成について図 3-4 に示した。

四地域で最も緑被率が多いのは、北部地域 38.1％であり，次に西部地域 32.8%，東部地域 27.0%，南部地域 23.0%の順となっている。以下に緑被率の多い順に各地域の概要を示した。

北部地域は，深大寺元町と深大寺北町に広がる都立神代植物公園などの公園の緑やその周辺に広がる果樹園・苗圃等が他の地域に比べ多く，このほか屋敷林や住宅・事務所等の植栽が比較的多くなっている。

西部地域は，西町の調布飛行場などの草地が他の地域に比べ多く，このほか野川公園や武蔵野の森公園などの公園の緑が比較的多くなっている。

東部地域は，仙川崖線や国分寺崖線の樹林地が連なり山林・平地林が残っていることや NTT 中央研修センタなどの民間施設緑地が他の地域に比べ多く，このほか屋敷林や住宅・事務所等の植栽が比較的多くなっている。

南部地域は，布田や染地に田畑が点在して残っており，他の地域に比べ多く，このほか住宅・事務所等の植栽や染地の公共団地内などの公共施設の緑が比較的多くなっている。

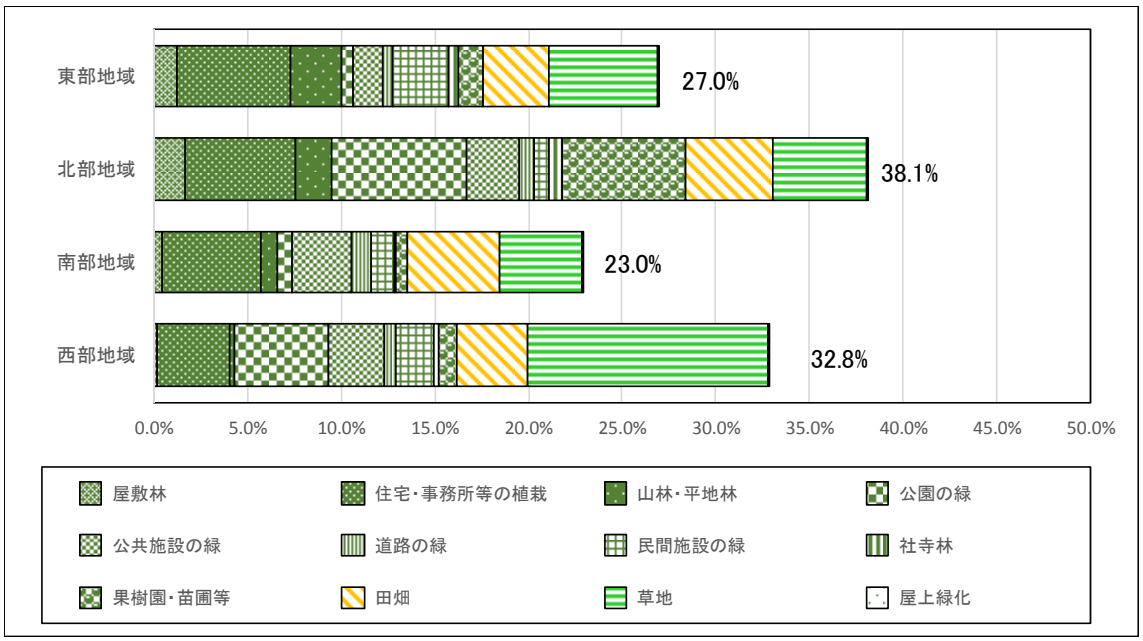

図 3-4　四地域別緑被地の構成

（3）丁目別・町別の緑被率とみどり率の現況

緑被率とみどり率を丁目別に示したのが図 3-5 及び図 3-6，町別に示したのが図 3-7 である。

これらのうち、緑被率をみてみると，緑被率が高いのは，野水（76.2%），深大寺元町（54.3%），深大寺北町（46.7%），深大寺南町（46.1%），西町（44.4%）などであり，これらの町には都立野川公園，調布飛行場，都立神代植物公園，深大寺自然広場などの大規模な施設や農地が分布している。

また，緑被率が低いのは，小島町（16.5%），仙川町（18.7%），菊野台（19.2%），上石原（19.7%），国領町（20.9%），八雲台（21.3%），布田（22.6%），富士見町（22.7%），下石原（23.5%）などである。これら以外でも古くから市街化が進んでいる町では緑被率 25%未満のところがあるが，農地や崖線の樹林地が残されている町は比較的緑被率が高くなっている。

緑被率に比べ，みどり率では公園の緑や敷地のほか，河川等が加わるため，武蔵野の森などの公園がある西町や多摩川河川敷でみどり率が高くなっている。

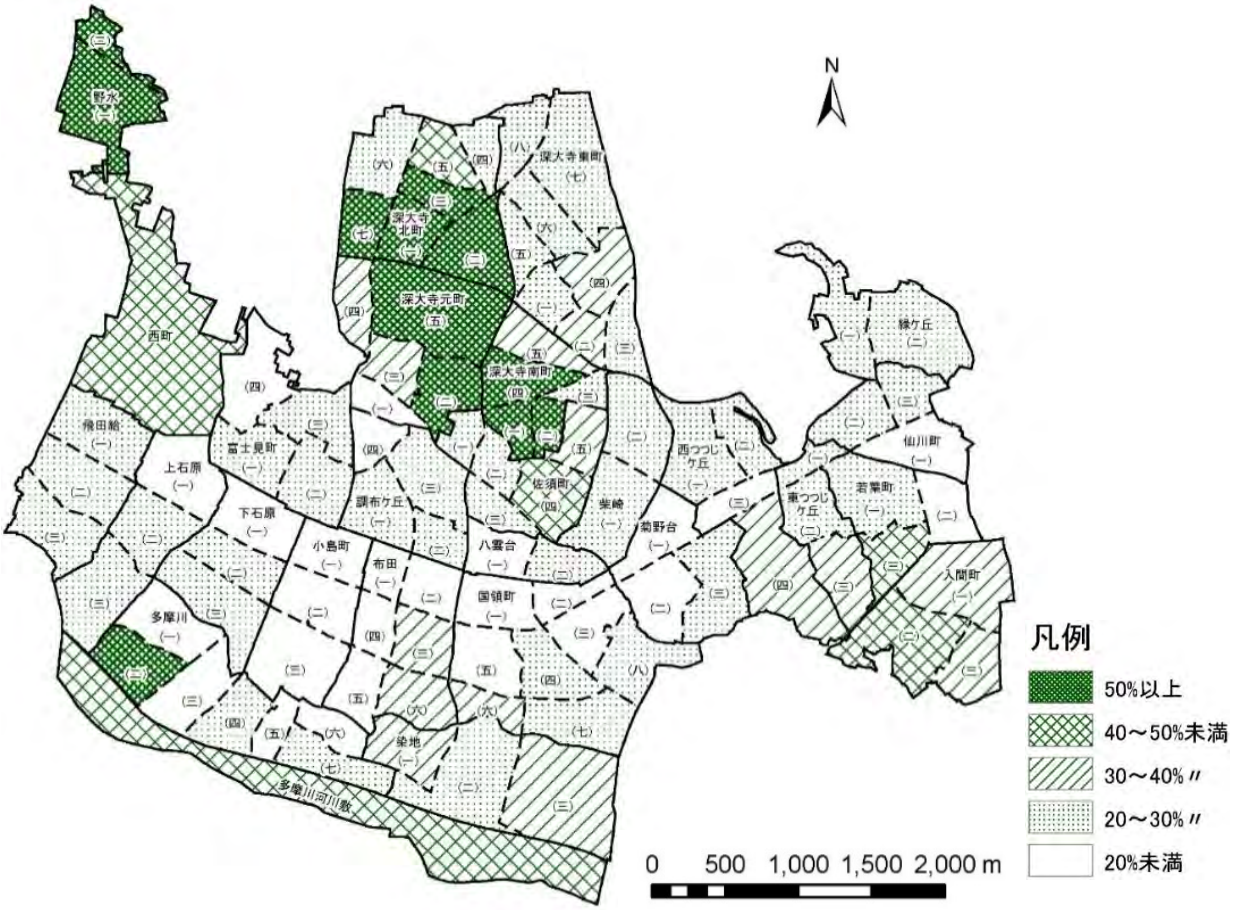

図 3-5　丁目別緑被率

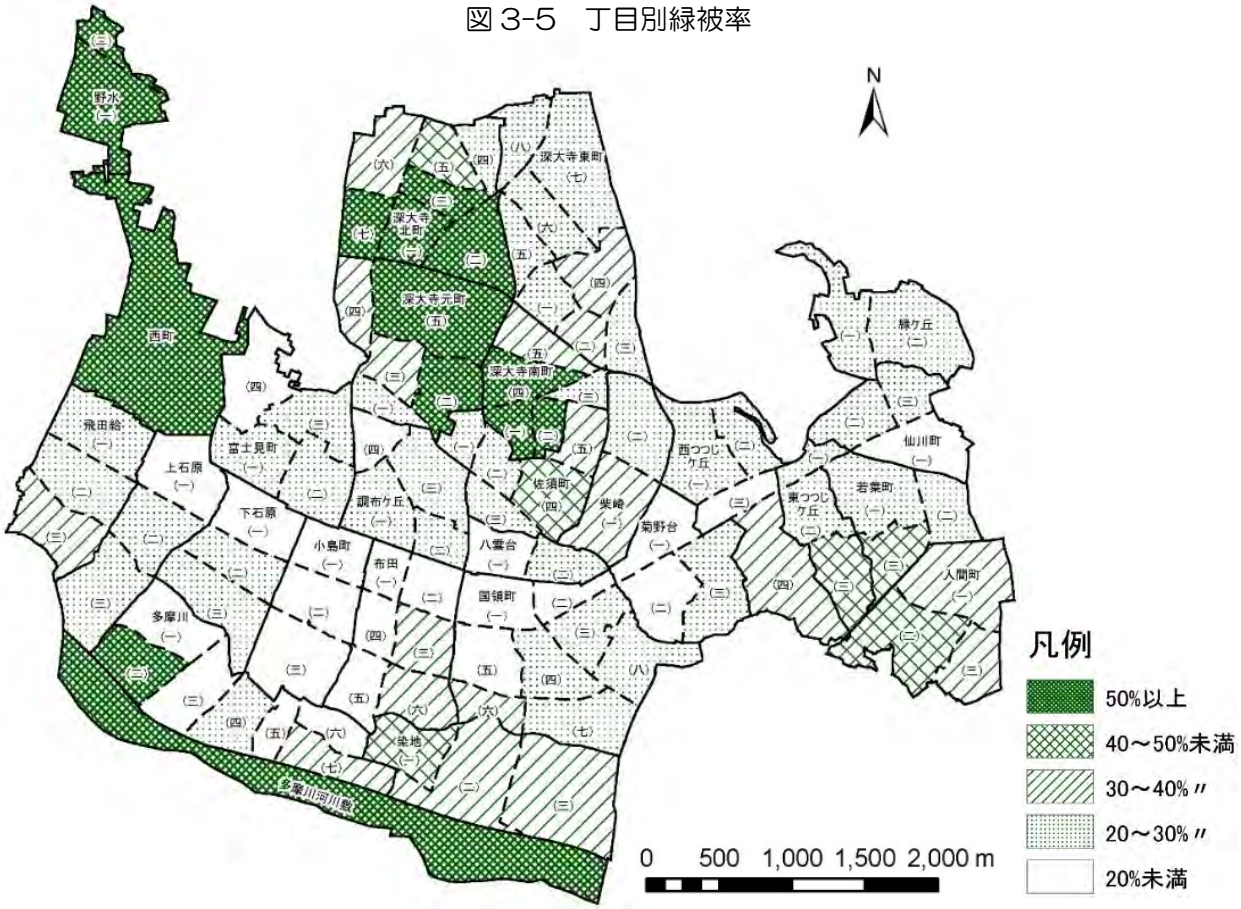

図 3-6　丁目別みどり率

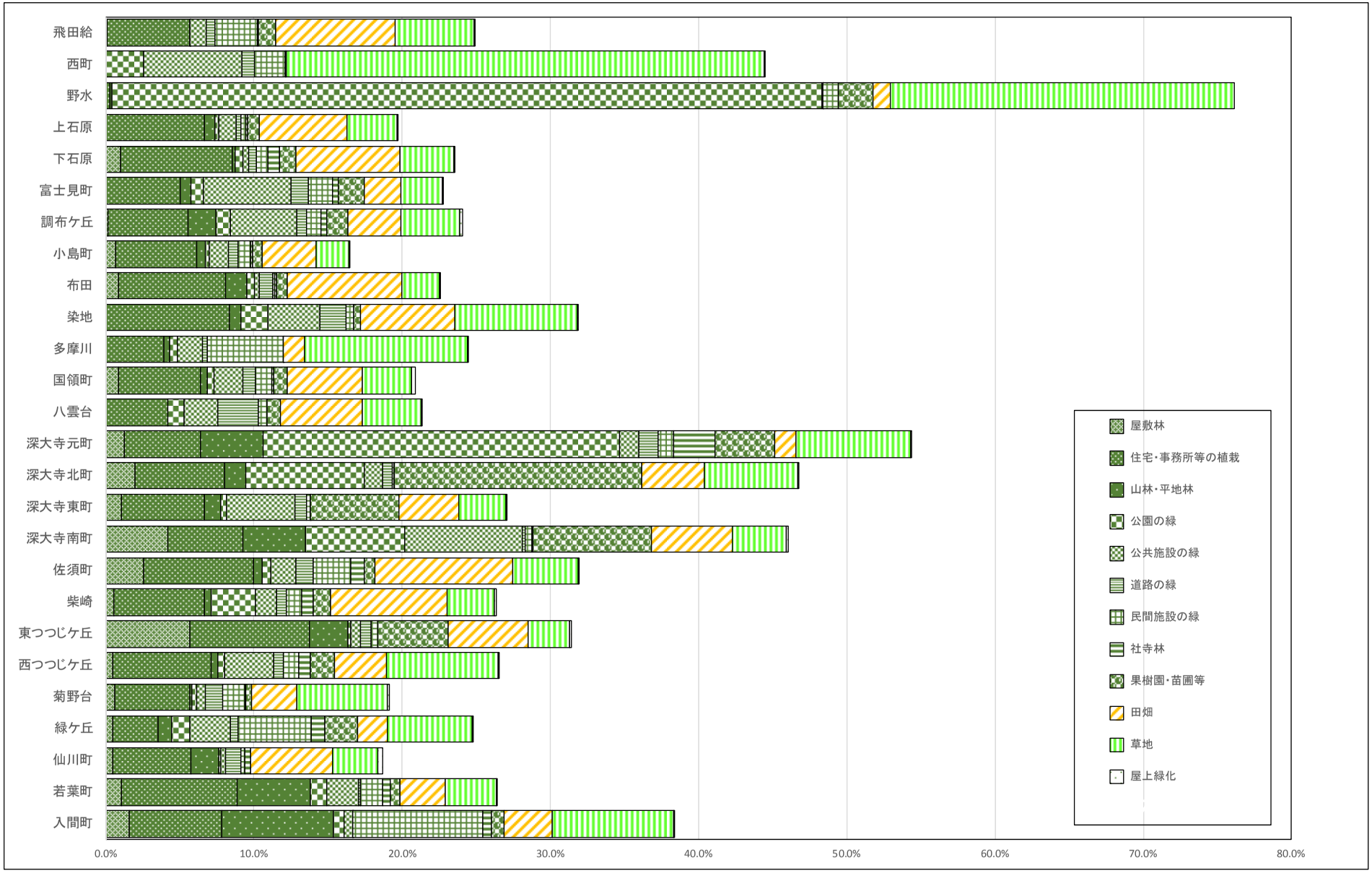

図 3-7　町別の緑被率及びその内訳

3-2　緑地の現況

（1）公園緑地など

市内には，都市公園*（街区公園，近隣公園，総合公園，特殊公園，広域公園），都市公園以外の公遊園（仲よし公園），そのほかの緑地（緑地，緑道，崖線，苗圃，団地内公遊園）が整備されている。

平成 27 年４月現在の都市公園と都市公園以外の公遊園の整備状況は，都市計画区域全体で 223 箇所，129.2ha が整備されており，そのほかの緑地も合わせると 295 箇所，141.0ha が整備されている。

そのうち，市街地区域では，都市公園・公遊園として 221 箇所，120.0ha，そのほかの緑地を合わせると 291 箇所，126.2ha が整備されている。

主な公園としては，神代公園（広域公園），野川公園（広域公園），実篤公園（特殊公園）などがあげられる。

尚、調布市の市民一人あたりの公園整備面積は，「調布市緑の基本調査　改定版」で示された目標の 5.50 ㎡を上回り，5.99 ㎡となっている。

表 3-4　公園緑地などの整備状況

種別				平成27年4月1日					
				市街化区域		市街化調整区域		都市計画区域	
				箇所	面積（ha）	箇所	面積（ha）	箇所	面積（ha）
都市公園	基幹公園	住区基幹公園	街区公園	189	14.5	0	0.0	189	14.5
			近隣公園	1	1.2	1	2.1	2	3.3
			地区公園	0	0.0	0	0.0	0	0.0
			計	190	15.7	1	2.1	191	17.8
		都市基幹公園	総合公園	1	0.5	0	0.0	1	0.5
			運動公園	1	2.7	1	7.1	2	9.8
			計	2	3.2	1	7.1	3	10.3
	計			192	18.9	2	9.2	194	28.1
	特殊公園			3	49.5	0	0.0	3	49.5
	広域公園			2	45.7	0	0.0	2	45.7
計				197	114.1	2	9.2	199	123.3
都市公園以外の公遊園	仲よし広場			24	5.9	0	0.0	24	5.9
	ポケットパーク			0	0.0	0	0.0	0	0.0
計				24	5.9	0	0.0	24	5.9
都市公園・公遊園計				221	120.0	2	9.2	223	129.2
その他の緑地	緑地			47	2.1	2	5.6	49	7.7
	緑道			18	2.4	0	0.0	18	2.4
	崖線			4	1.7	0	0.0	4	1.7
	苗圃			1	0.0	0	0.0	1	0.0
計				70	6.2	2	5.6	72	11.8
総計				291	126.2	4	14.8	295	141.0

＊参考資料に語句説明あり。

（2）地域制緑地

地域制緑地の面積は，255.8ha であり，このうち，東京都の「東京における自然保護と回復に関する条例」による保全地域が若葉町と入間町に計２箇所（0.9ha），「調布市自然環境の保全などに関する条例」による保全地区は，若葉町，入間町，佐須町，深大寺北町などに計 34 箇所（4.6ha），「生産緑地法」による生産緑地（125.7ha）が市域全体に分布しており，特に深大寺や染地に多く指定されている。また，「森林法」による保安林*は都立神代植物園の南側の深大寺境内地に２箇所（3.1ha），「河川法」による河川区域（121.9ha）が多摩川，野川，仙川，入間川に指定されている。

表 3-5　地域制緑地の現況

区　　分		面　　積(ha) 平成27年4月1日
地域制緑地	保安林	3.1
	生産緑地	125.7
	東京都の保全地域	0.9
	保全地区	4.6
	河川区域	121.9
	地域制緑地内の重複	−0.4
	合計	255.8

＊参考資料に語句説明あり。

3-3　緑被地等の変遷

（1）調布市全体の変遷

〔緑被地/緑被率〕

昭和 62 年	平成 5 年	平成 16 年	平成 27 年
779.78ha	789.91ha	715.58ha	669.98ha
35.8%	36.7%	33.2%	31.0%

平成 5 年から減少している。

※平成 22 年の緑被地/緑被率は，688.96ha/32.0%です。

〔みどり率〕

平成 22 年*	平成 27 年
36.0%	35.5%

平成 22 年からほぼ横ばい。

市全体で昭和 62 年から平成 5 年にかけて，緑被地（緑被率）は 779.78ha（35.8%）から 789.91ha（36.7%）へ，緑被率が 0.9%増加した。一方，平成 5 年から平成 16 年にかけては，789.9ha（36.7%）から 715.58ha（33.2%）へ緑被率が 3.5%減少し，さらに平成 16 年から平成 26 年にかけては，715.58ha（33.2%）から 669.98ha（31.0%）へ，緑被率が 2.2%減少している。

このように，緑被地及び緑被率は平成 5 年から減少傾向にある。

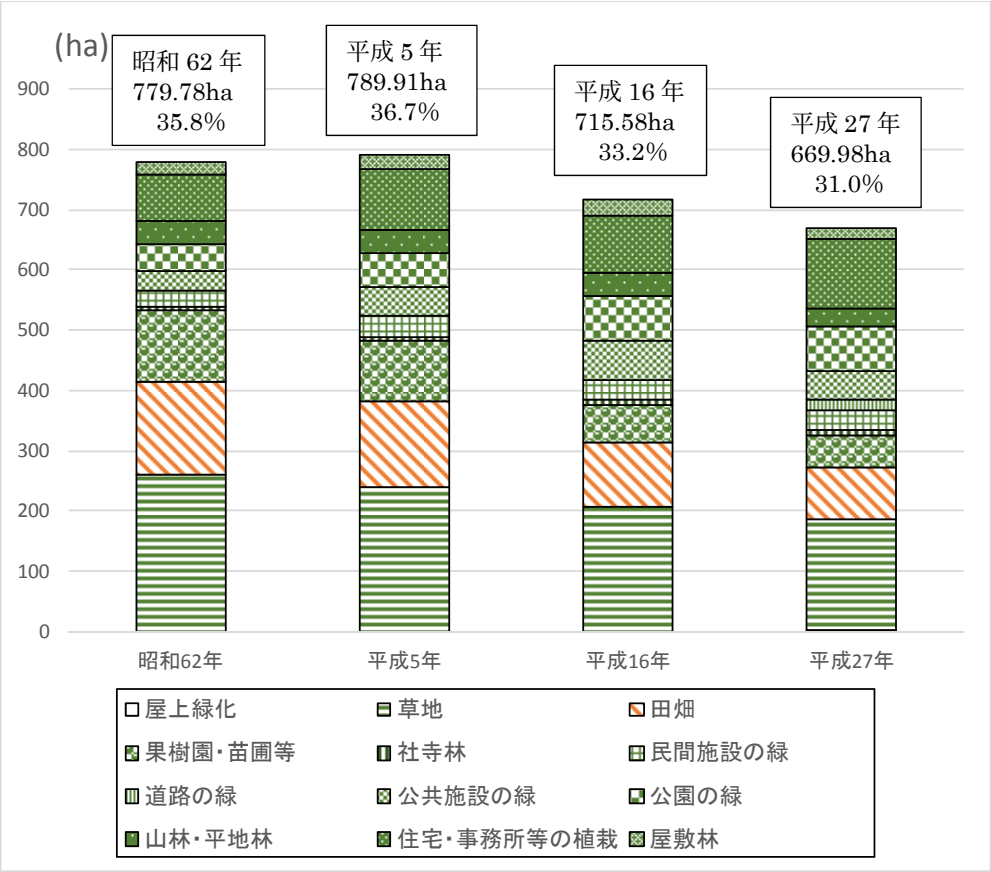

図 3-8　緑被地及び緑被率の変遷

＊調布市は「調布市緑の基本計画　庭園のまち　調布　改定版」（平成 23 年）において，「緑の将来目標」として「平成 22 年のみどり率 36.0%」の維持を目標としている。

特に，平成 16 年以降は，住宅・事務所等の植栽（+0.9%）と民間施設の緑（+0.1%）が増加したものの，多くの緑被地が減少している。その中で大きく減少したのは，田畑（-0.8%），草地（-1.2%）である。これは，裸地（-1.5%）も大きく減少していることから，農地や草地において開発が進展して人工被覆面にとって変わったものと考えられる。

尚，みどり率は，緑の将来目標とされる平成 22 年のみどり率 36.0%から平成 27 年には 35.5%と，ほぼ横ばいとなっている。

表 3-6　緑被地の変遷状況

（単位：ha,%）

区分			昭和62年		平成5年		増減		平成16年		増減		平成27年		増減	
			面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)
緑被地①	立体的みどり	屋敷林	21.53	1.0%	22.78	1.1%	1.25	0.1%	24.27	1.1%	1.49	0.0%	18.50	0.9%	-5.77	-0.2%
		住宅・事務所等の植栽	76.54	3.5%	99.34	4.6%	22.8	1.1%	96.32	4.5%	-3.02	-0.1%	116.20	5.4%	19.88	0.7%
		山林・平地林	39.29	1.8%	41.1	1.9%	1.81	0.1%	39.19	1.8%	-1.91	-0.1%	29.07	1.3%	-10.12	-0.5%
		公園の緑	44.25	2.0%	53.98	2.5%	9.73	0.5%	73.65	3.4%	19.67	0.9%	72.55	3.4%	-1.10	0.0%
		公共施設の緑	32.17	1.5%	49.38	2.3%	17.21	0.8%	64.98	3.0%	15.6	0.7%	50.08	2.3%	-14.90	-0.5%
		道路の緑	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	16.06	0.7%	–	–
		民間施設の緑	25.84	1.2%	33.9	1.6%	8.06	0.4%	32.59	1.5%	-1.31	-0.1%	34.02	1.6%	1.43	0.1%
		社寺林	7.18	0.3%	7.87	0.4%	0.69	0.0%	7.73	0.4%	-0.14	0.0%	8.09	0.4%	0.36	0.0%
		果樹園・苗圃等	118.88	5.5%	100.79	4.7%	-18.09	-0.8%	62.16	2.9%	-38.63	-1.8%	51.66	2.4%	-10.50	-0.5%
			365.68	16.8%	409.14	19.0%	43.46	2.2%	400.89	18.6%	-8.25	-0.4%	396.23	18.4%	-4.66	-0.3%
	平面的みどり	田畑	154.44	7.1%	140.36	6.5%	-14.08	-0.6%	106.3	4.9%	-34.06	-1.6%	88.56	4.1%	-17.74	-0.8%
		草地	259.66	11.9%	240.41	11.2%	-19.25	0.8%	208.39	9.7%	-32.02	-1.5%	183.59	8.5%	-24.80	-1.2%
			414.1	19.0%	380.77	17.7%	-33.33	-1.3%	314.69	14.6%	-66.08	-3.1%	272.15	12.6%	-42.54	-2.0%
	屋上緑化		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1.60	0.1%	–	–
			779.78	35.8%	789.91	36.7%	10.13	0.9%	715.58	33.2%	-74.33	-3.5%	669.98	31.0%	-45.60	-2.2%
その他のオープンスペース②		裸地	195.71	9.0%	147.14	6.8%	-48.57	-2.1%	99.92	4.6%	-47.22	-2.2%	66.84	3.1%	-33.08	-1.5%
		水面	28.93	1.3%	38.74	1.8%	9.81	0.5%	36.67	1.7%	-2.07	-0.1%	38.75	1.8%	2.08	0.1%
			224.64	10.3%	185.88	8.6%	-38.76	-1.7%	136.59	6.3%	-49.29	-2.3%	105.59	4.9%	-31.00	-1.4%
自然面 ①＋②			1,004.42	46.1%	975.79	45.3%	-28.63	-0.8%	852.17	39.5%	-123.6	-5.8%	775.57	35.9%	-76.60	-3.6%
人工被覆面			1,175	53.9%	1,177	54.7%	2.63	0.8%	1300.83	60.5%	123.62	5.8%	1,382.43	64.1%	81.60	3.6%
市全体			2,179	100.0%	2,153	100.0%	-26		2,153	100.0%	0.00		2,158	100.0%	5	

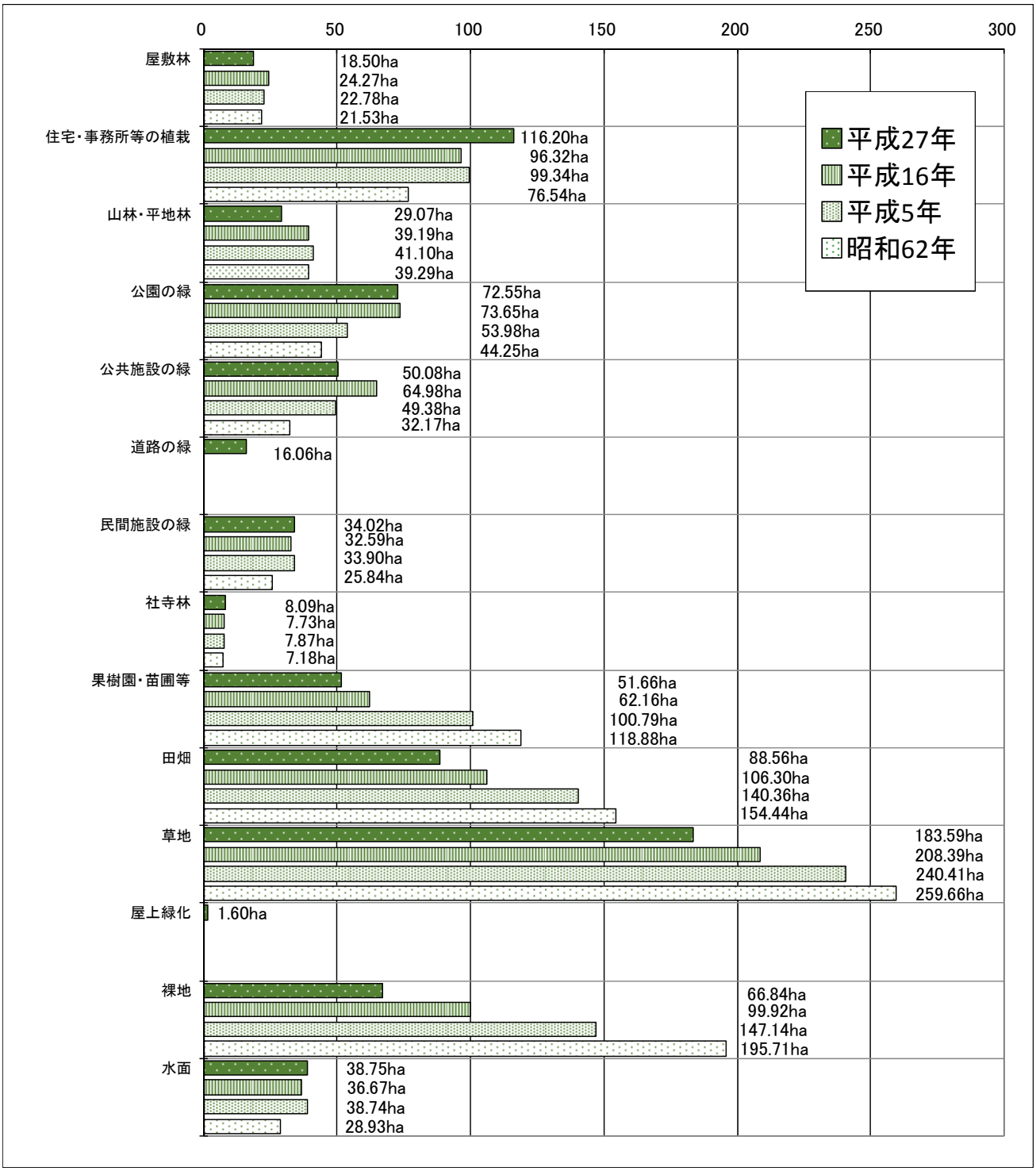

図 3-9　緑被地区分別の変遷

1)立体的みどりの変化要因

市内で起こっている立体的みどりの変遷状況をまとめると次のとおりである。

①増加の要因

・樹木の生長による増加

社寺林では大きな伐採がないため，樹木の生長によって，一定程度の増加がみられる。

・新規植栽による増加

都立神代植物公園では生長に加えて，新規植栽による樹木の増加もみられる。

・開発行為に基づく植栽による増加

マンション，戸建など民間施設や住宅建設など開発行為の緑化指導に基づく植栽によるものが考えられる。

②減少の要因

・樹木の伐採による減少

土地利用の改変が見られ，屋敷林などのまとまった緑地が減少している。国分寺崖線では，一部開発により樹木が消失している場所がある。庭の樹木や樹林地などが宅地化や舗装などのために伐採される場合もある。また，土地利用や建物が変化していなくても日照の確保や近隣への迷惑などの理由から樹木が伐採されている場合もみられる。

・樹木の剪定による減少

伐採に至らないまでも，枝下しや剪定によって緑被面積が減少する場合もある。

2)平面的みどりの変化要因

市内で起こっている平面的みどりの変遷状況をまとめると次のとおりである。

①増加の要因

・開発行為に基づく植栽による増加

住宅や施設内の庭に芝などを造成した場合や，テニスコートや運動場を緑化した場合などが該当する。

また，裸地に雑草が茂った場合なども大規模施設内にみられる。

②減少の要因

・農地や草地における開発による減少

農地や草地の宅地化や舗装により減少している場合がほとんどである。農地や草地が住宅に土地利用転換されたことが大きな要因と考えられる。

尚，市内の緑の変遷状況を定点観測の視点より，特徴的な 5 地点を昭和 62 年調査，平成 5 年調査及び平成 16 年調査と同地点の航空写真で比較したものを次ページ以降に示した。